

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100559		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	すずらん寿楽の家		
所在地	三重県桑名市稗田944番地		
自己評価作成日	平成27年 10月 20日	評価結果市町提出日	平成28年1月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470100559-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 11 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と職員が「家族」のような関係で日々過ごせるように早期から信頼関係を築き上げる事によって、入居者の方の悩みや思いを聴き逃さない様職員一同努めている。また自然豊かな環境に施設が立地しており、日課として安全に屋外の散歩を実施する事により体力の維持、季節感、集団で行動することによる入居者同士の交流、地域の方々との挨拶や立ち話の機会にもなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この地に移転してから5年となり、自治会との連携や地域との交流も出来てきている。田畑に囲まれた静かな環境の中、3ユニットにデイサービスを併設した、白を基調としてゆったりとした施設である。3ユニットそれぞれのリーダーの個性も現れているが協力体制もとられており、理念に基づき家族のように楽しくにぎやかに、常に利用者が笑っている施設を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数年前にスタッフ間で解りやすい事業所理念に変更し、入居者と共に作成したものを掲げ共有・実践している。	「その人らしく 私らしく 共に笑い とともに生きる」を新しい理念として出入り口に掲げ、目にする度に認識し直している。押し付けなど気になる行為を目にした時には理念に立ち返り話し合っている。常に笑顔で接することを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店舗への買い物や散歩での出会い、地域の行事等を通して交流している。	5年前に移転して来て、今は自治会の一員として溶け込んで関わっている。自治会の年中行事に積極的に参加しているが、小学校や園児とのつながりはまだない。周辺が地元の方の散歩コースになっており、よく声をかけてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期に開催している運営推進会議を中心に情報を共有している。電話連絡を通しての介護相談等もあり専門職として対応させてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者家族・行政・包括・地域の代表者に参加していただき、日頃の入居者の方達の過ごされ方等の近況報告を行ったり様々な情報交換の場として2カ月に一回の定期開催している。	運営推進会議は年間計画に組み入れ年6回開催をしている。家族の参加はなかなか進んでいないが、他の参加者とは気安く話し合いが出来る関係が築けており、介護保険の改定や防災について、更には介護ロボットの情報まで話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会ある毎に市役所の各関連部署に出向いたりして連絡調整を行っている。	最近、市による生活保護の方の実態調査に協力したり、独居の利用者の対応について相談をしたりと、その時その時に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを理解し実践できるように事業所内研修を開き日々のケアに取り組んでいる。	月1回の勉強会の中で、身体拘束についても基本に立ち返り認識確認を行っている。玄関の施錠は日中は完全に開放し、夜間は防犯のため二重ロックにしている。玄関にはセンサーが付いており、優しいチャイムがなるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にて高齢者虐待防止の研修を行い関係者への周知徹底・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて成年後見制度や権利擁護の利用を検討し、実際に成年後見制度・権利擁護の手続きを支援したケースもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすく丁寧な説明に努め、その都度わかりにくい点は訪ねてもらっている。介護保険改定時の際も説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情申立先を明記してあるとともに管理者や職員に話しやすい関係ができています。	利用者には日常的に意見を聞き、出来る事はすぐに実行するようにしている。家族には面会時などに近況報告をして話し易い雰囲気を作るよう心がけ、気楽に話をしている。遠方の家族には電話や手紙で連絡が取れている。家族会はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、法人内の施設長会議に代表者も出席し様々な意見交換を行っている。	改まって個別面接は行ってはいないが、朝の申し送りやミーティングの時に浴槽マットの導入案や入浴手順の見直しなどいろいろな意見が出る。その場で出来る事は対応し、それ以外は月1回行われる施設長会議にかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流はあるが、同業者との交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報は本人・家族からの聞きとりから始まり、入居者との日々のコミュニケーションを通じ様々な思いを早期に把握できるように努め、意思疎通の困難な方は家族等関係者からの情報を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者本人だけでなく家族等の困っていること、今後の心配事など随時お聞きし共に考え支援できるよう、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の出来る事出来ない事を踏まえて、日常生活(洗濯や掃除等)を職員と共に行い、また入居者同士の支えあう場面も見受けられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な家族と入居者との関わりを踏まえて良好な関係が継続できるよう、また共に入居者本人を支えていけるような対応に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人や家族からの情報に基づき、馴染みの方との連絡調整を支援したり、自宅や墓参り等行きたい場所に極力行けるよう支援している。	利用者が会いたい人があれば家族と連携して訪問を依頼したり、機会を捉えて馴染みの場所を少し遠回りしてでも観に行くなど工夫している。墓参りや行きつけの理美容院など家族と共に行けるよう調整も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関わりについて把握し支援している。他者との関わりが苦手な入居者は無理のないように職員がコミュニケーションの橋渡しを行い、利用者同士が自然と支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退院などにより退去された後も必要に応じて本人・家族の今後のサービス利用等における相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の聞き取り調査に加え、日々本人の思いや希望・意向を伺えるようにコミュニケーションを大切にしている。困難な場合には家族等関係者から聞き取り、意向の把握に努めている。	一対一の介助の時や受診に付き添う時などに思いを聞き取る様になっている。新しいことは「個別日課票」の「留意事項」に記載をし、周知をするとともに新しい介護計画にも反映させるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人や家族や担当者からこれまでの暮らしぶりやサービス利用状況等の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りにおいて職員間で情報が共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間は勿論の事、本人や医療機関等必要な関係者と話し合い現状に即した計画書の作成に努めている。	毎月モニタリングを行い、カンファレンスは通常は利用者ごと6か月～1年に1回は行っている。担当者会議は昼食時の時間を利用して行い、受診時に聞き取りしたことなどプランに反映させるように話し合っ介護計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日課表等に日々の様子や気づきを記録し、その内容を踏まえて介護計画の見直しや実践内容の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に応じた買い物や外出を支援している。また定期往診の他、受診やリハビリも必要に応じて協力医療機関を中心に実施している。その他、外部の行事への参加等柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店舗への買い物や訪問理美容等、入居前と変わらぬ暮らしをより一層楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の受診や定期往診で健康管理を行っているほか、本人や家族の意向も踏まえ入所前のかかりつけ医の受診や付添いも複数の方に支援している。	以前からのかかりつけ医を受診する利用者や協力医にかかる利用者と様々で、受診も家族が付き添う方もあれば職員が付き添う利用者もあり、個々に対応して支援している。往診をしてくれる先生も増えて来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と連携し緊急時対応、相談業務等状態変化に応じた支援を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行ったり病院関係者や家族と連絡を取り合い、情報交換や受け入れ態勢の調整等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族の終末期に対する思いや当事業所の方針を話し合い、終末期が近づいてきたら家族や主治医と連携を図り、再度方向性の話し合いを重ね支援を行っている。	今までに看取りを行った利用者は1名あるが、現在看護師の手配がなく、医療処置が難しい状態にあることは家族との話し合いで了承されている。今後重度化した時は家族と話し合って支援していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを基にAEDの使用方法含む緊急時対応を周知し、急変が起きた場合の対処方法も日々話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所での防災訓練の他、非常時における飲食物の備蓄、災害時の対応等法人内でも話し合っている。また、疑問点は消防署に確認も行っている。	避難訓練は年2回行っているが、これからは火災訓練と地震災害訓練が必要と考えている。訓練時に理解が難しくパニックを起こす利用者もあり、ケガや転倒などに繋がらない支援することも重視している。住民の避難場所という話も出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や入浴時の声かけ・支援において当然のことながらプライバシーに気を使い、また臭いなど他者に対しての配慮も気を付けています。	トイレに関する問題点が多く、優しく声掛けをするとともに、一人ひとりその人に合わせた声掛けを常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対話を通じ、本人の思いや希望を聞き取れるよう働きかけ、何事にも施設側の押し付けにならないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活リズム(体調・気持ち等)に合わせ、施設側の都合を優先する事が無いよう日々のケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着用する衣類を本人に選んでいただいたり化粧される方は必要な物品をそろえたりと支援しています。また定期的に訪問理美容も来訪し、以前からの馴染みの理美容でカットや毛染めされる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ簡単な調理やテーブル拭き等職員と共に実施している。	昼食と夕食のおかずは法人一括で外注に出しているため個別対応が出来ない。利用者の希望がある場合は家族と共に外食をしたり、外出時に購入したりしている。季節食は朝食や1品追加で味わえる様工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分が必要量確保されるように声掛け・見守り・介助を行っています。摂取量は記録し把握します。個々に合わせた食事形態を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導、介助により歯磨き等口腔ケアは行われている。協力医療機関の歯科医とも連携し必要時は往診や通院、指示を仰いだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力トイレでの排泄を念頭に置きながら排泄記録等を基に個々の排泄に対する声がけや見守り、介助を行っている。	トイレ排泄が基本と考え、排泄記録をつけ定期誘導を行ったり 早めの声掛けを行ったりしている。現在オムツからリハビリパンツにと改善したいとの思いから頑張っており取り組んでいる利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との連携のもと服薬調整や、リハビリ体操、散歩等体を動かすことや水分摂取、また個々に合わせバナナやヨーグルト等を提供し排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ユニットで入浴の日時をずらしたりと協力し、臨機応変な対応が出来るような体制を作っている。また、ゆず湯や菖蒲湯などの場合によって入浴が楽しんでもらえるような機会も設けている。	入浴は1日置きで入浴の順番をかえ、時にはしょうぶ湯やゆず湯などの季節湯も取り入れて実施している。入浴時に気持ちよく歌が出ることもある。時には拒否もあるが上手に誘い、最後には「気持ちよかった」と聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠の為に空調や暗さ等個々に合わせた環境作りをしている。また、夜間ぐっすり休んでもらえるように日中の過ごし方にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方薬が変更になった時は、職員に効能・服薬方法等申し送りしている。毎日の服薬セットは間違いがあってはならないので特定の職員により行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設での日々の生活を今までの生活の延長と捉え、日常の家事を自身で出来る事は職員と共にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外への散歩は基本的に一年を通して自由参加ではあるが日課となっており買い物や花見なども実施している。外出・外泊も家族と連絡調整しながら複数の方がされている。	1ユニットを3～4人2つのグループに分けてほぼ毎日日常的に散歩に出かけている。車いすで見守りを受けながら自走の練習をしている利用者もある。地元の方の散歩コースでもあるので皆さんに声掛けをして貰っている。遠出はトイレ環境などが整備された場所に限られてしまっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ現金を管理してもらい、敷地内の自動販売機やコンビニ等買い物の支払いを行っている入居者もみえます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行為が可能な方には支援は行われている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は絶えず清潔を心がけながら落ち着いて過ごしていただけるよう入居者の写真やちぎり絵等の作品を展示したりと皆が自然と集まれるような和やかな雰囲気作りに努めている。	中庭から日差しが良く入り、建物全体が白基調で清潔感が漂うゆったりとした共同空間になっている。トイレや浴室の入り口も共同空間から見えない場所に配置されている。季節感を感じるものや利用者の作品などの展示が少ない。	共同空間で季節感を感じられる工夫をしたり、利用者が日中を独りで過ごしたり、気の合った者同士で思い思いに過ごしたりと 自分らしく過ごせる環境の工夫を今一度検討していただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士で居室を行き来されたり、共有フロアで皆で歓談されたり廊下で日向ぼっこをされたり思い思いに過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から慣れ親しんだタンスや鏡台等の家具や食器など持ってきていただき、新しい環境にも落ちついて生活できるよう配慮している。	各部屋にはベット・エアコン・上部の吊戸棚が設置されており、テレビや整理筆筒など持ち込まれていた。仏壇も持ってきている利用者もあるが、家族の写真や思い出の品物の持ち込みは少なめである。	居室は利用者にとっては自宅であるので、それぞれ自分らしい部屋、個人の個性を感じられる部屋づくりやその人らしく居心地よく過ごせる雰囲気工夫の工夫を検討して頂きたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりもあるので移動時に掴まる方もいれば歩行訓練や立位訓練のリハビリをされる方もみえます。動線上には極力物を置かないようにもしています。		